元総社蒼海遺跡群（25）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

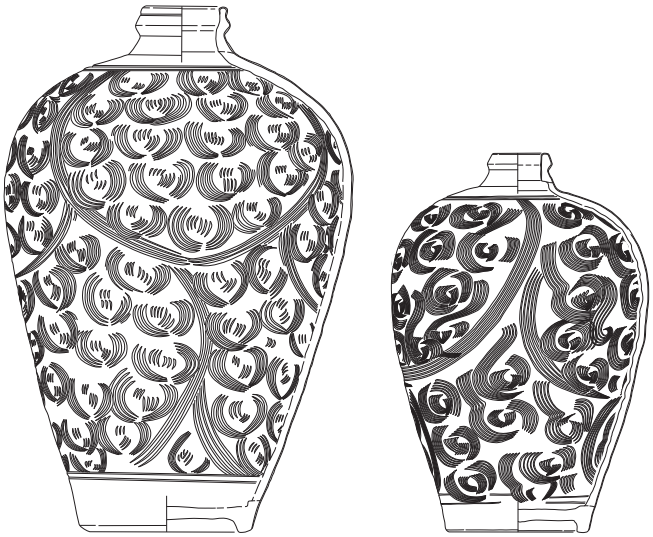
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００９．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（25）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群（25）出土
青白磁渦文瓶（景徳鎮窯）13世紀～14世紀

２００９．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

遺構外出土遺物 11

青白磁渦文瓶（景徳鎮窯）
13 世紀～ 14 世紀
南宋～元時代
口径：5.5 cm
底径：11.3 cm
器高：34.9 cm

元総社蒼海遺跡群 (25) 出土青白磁渦文瓶

口絵写真２

元総社蒼海遺跡群（25）出土青白磁渦文瓶

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（25）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　**依　田　三次郎**

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（25）発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町 2049 番２号ほか１筆
遺　跡　コ　ー　ド	20 A 130-25
発　掘　調　査　期　間	平成20年12月26日～平成21年２月10日
整理・報告書作成期間	平成21年２月11日～平成21年３月16日
発 掘 ・ 整 理 担 当 者	日沖剛史・水谷貴之・向出博之（有限会社毛野考古学研究所）

4．本遺跡に関わる遺構測量に関しては、髙木義明・黒岩拓也（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

5．本書の編集は日沖・和久拓照（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆はＩを山下歳信（前橋市教育委員会）、他を日沖が担当した。

6．発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】石倉稔夫・一場友香里・神山早苗・金子稚加・川嶋祥子・小松川早苗・佐藤　修・佐藤安男
椎原京子・高野　繁・田辺　昇・角田宇三郎・庭山皓正・橋元裕児・船戸　登・牧野完一
森山恵子・山崎一男・綿貫瑛一

【整理作業】 一場友香里・樺沢美枝・武士久美子・伴場りく

7．発掘調査で出土した遺物及び、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

8．以下の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
秋本太郎・飯森康弘・石守　晃・上野尚美・大西雅広・小川卓也・小野正敏・折舘伸二・黒澤照弘
坂口　一・佐々木清貴・清水　豊・早田　勉・都木真澄・高橋　敦・髙林真人・中島直樹・中村岳彦
藤原良祐・松元美由紀・三浦京子・山口逸弘・元総社町自治会・株式会社測研・株式会社歴史の杜
山下工業株式会社・カネコハウス有限会社・株式会社スカイサーヴェイ

凡　　例

1．遺構図の縮尺については挿図中にスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。

2．遺物実測図の縮尺は、１/２～１/３縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

3．遺物実測図に使用しているトーンは次の意味を表す。

灰釉

4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ：古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｗ：溝跡　　Ｄ：土坑　　Ｐ：ピット

5．遺構及び土器の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

目　　次

口絵写真１
はじめに
例言・凡例
目次・挿図目次・表目次・写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯…… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境…… 1
　１　地理的環境…… 1
　２　歴史的環境…… 2
Ⅲ　調査方針と経過…… 4
　１　調査方針…… 4
　２　調査経過…… 4
Ⅳ　標準堆積土層…… 5
Ⅴ　遺構と遺物…… 5
　１　遺跡の概要…… 5
　２　竪穴住居跡…… 5
　３　土坑…… 9
　４　溝…… 9
　５　硬化面…… 9
　６　ピット…… 10
　７　遺構外出土遺物…… 10
写真図版
抄録
奥付

図版目次

Fig. １　調査区域図…… 1
Fig. ２　元総社蒼海遺跡群位置図…… 2
Fig. ３　遺跡分布図…… 3
Fig. ４　標準堆積土層…… 5
Fig. ５　全体図…… 6
Fig. ６　Ｈ－１・10号住居跡…… 11
Fig. ７　Ｈ－２号住居跡…… 12
Fig. ８　Ｈ－３・４・８号住居跡①…… 12
Fig. ９　Ｈ－３・４・８号住居跡②…… 13
Fig. 10　Ｈ－５号住居跡…… 13
Fig. 11　Ｈ－５号住居跡（貯蔵穴・カマド断面）… 14
Fig. 12　Ｈ－６号住居跡…… 14
Fig. 13　Ｈ－７号住居跡…… 14
Fig. 14　Ｈ－７号住居跡（土層説明）…… 15
Fig. 15　Ｈ－９号住居跡…… 15
Fig. 16　出土遺物実測図①…… 16
Fig. 17　出土遺物実測図②…… 17
Fig. 18　出土遺物実測図③…… 18
Fig. 19　出土した青白磁梅瓶の文様構成…… 20

表目次

Tab. １　土坑一覧表…… 9
Tab. ２　ピット一覧表…… 10
Tab. ３　遺物観察表①…… 19
Tab. ４　遺物観察表②…… 20

写真図版目次

ＰＬ．１
　遺跡全景
　遺跡全景
　遺跡全景
　Ｈ－１号住居跡全景
　Ｈ－１号住居跡土層断面
ＰＬ．２
　Ｈ－１号住居跡カマド全景
　Ｈ－１号住居跡カマド全景
　Ｈ－２号住居跡全景
　Ｈ－３号住居跡全景
　Ｈ－３号住居跡カマド全景
　Ｈ－４号住居跡掘り方全景
　Ｈ－５号住居跡全景
　Ｈ－５号住居跡遺物出土状況
ＰＬ．３
　Ｈ－５号住居跡遺物出土状況
　Ｈ－５号住居跡カマド全景
　Ｈ－６号住居跡全景
　Ｈ－７号住居跡全景
　Ｈ－７号住居跡遺物出土状況
　Ｈ－７号住居跡カマド全景
　Ｈ－８号住居跡全景
　Ｈ－８号住居跡カマド全景
ＰＬ．４
　Ｈ－９号住居跡全景
　Ｈ－９号住居跡遺物出土状況
　Ｈ－９号住居跡遺物出土状況
　Ｈ－10号住居跡カマド土層断面
　Ｄ－１号土坑全景
　Ｄ－２号土坑全景
　須恵器集中地点
　調査風景
ＰＬ．５
　出土遺物①
ＰＬ．６
　出土遺物②

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、9年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成20年9月30日付けで、前橋市長高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成20年12月24日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した、調査団は民間調査機関である有限会社毛野考古学研究所取締役　長井正欣と12月26日付けで業務委託契約を締結し、12月26日より発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称は元総社蒼海遺跡群（25）とした。遺跡コードは20Ａ130－25とし、20…年度、Ａ130…元総社蒼海遺跡群、 25は個別遺跡番号とした。

Fig. 1　調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現形図52-１・52-３』1/2,500を50%縮小）

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１．地理的環境（Fig. ２）

元総社蒼海遺跡群が立地する前橋市は、群馬県の中央からやや南東寄りに位置し、北の渋川市・富士見村、東の桐生市・伊勢崎市、西の高崎市・吉岡町・榛東村、南の玉村町と境を接し、周囲を見わたすと北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山を望むことができる。市域の西側には、榛名山麓を源とする幾つもの小河川を集める利根川が南流しており、同河川を中心として数々の文化が栄えている。利根川の現流路は15世紀後半頃に定まったものとされており、それ以前は、前橋市大手町の北側で現流路から逸れて、南東流していたことが確認されている。なお、旧利根川の流路は、現在の広瀬川に一致するものとされている。

元総社蒼海遺跡群は、前橋市の西端に位置し、遺跡の西2.4㎞には群馬県庁、南南東1.9㎞には関越自動車道前橋インターが立地している。また、地形的な要因を加味すると本遺跡周辺は、榛名山麓より広がる相馬ヶ原扇状地の末端部にあたる。なお、相馬ヶ原扇状地は、榛名山の陣場岩屑なだれに起因するものとされており、その範囲は榛名山南東麓の大部分にわたる。陣場岩屑なだれは、Ａｓ－ＹＰ（浅間板鼻黄色軽石：13,000～14,000年前降下：ｙｂｐ）とＡｓ－Ｓｒ（浅間白糸軽石：18,000年前降下）の間に起きていることが発掘調査等で解明されていることから、相馬ヶ原扇状地の形成も両軽石降下間と言えよう。扇状地の形成は河川の流路にも影響

を及ぼし、扇状地形が開ける方向へ河川も流下する状況が窺える。本遺跡周辺にも榛名山麓より南東流する染谷川・牛池川・八幡川等の河川が見られ、遺跡の占地に影響を与えている。元総社蒼海遺跡群は、染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地しており、同じ台地上には代表的な遺跡として上野国府・国分僧寺・国分尼寺・蒼海城等の痕跡が捉えられている。

現在、元総社蒼海遺跡の周辺は上野国府や蒼海城の地割りが残っており、特に蒼海城に関しては、土塁や埋没した堀の痕跡を部分的に見ることができる。

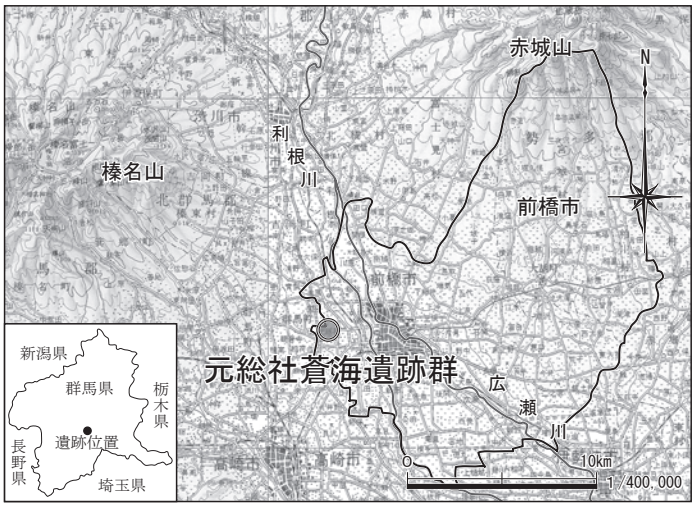


Fig. 2　元総社蒼海遺跡群位置図
（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000 を 50%縮小）

2．歴史的環境（Fig. 3）

本遺跡が立地する元総社周辺は、古くから上野国府・国分僧寺・国分尼寺・山王廃寺等が建立され、群馬県内において中枢をなす地域として広く知られている。また、中世になると上野国府の地割りを利用して造られたとされる蒼海城の存在も周知であろう。このような状況から、本遺跡周辺は奈良・平安時代及び中世の遺跡等が目立つ地域となっているが、周辺遺跡を見わたすと、人々が残した痕跡が縄文時代より連綿と続いている状況を窺うことができる。ここでは、各時代ごとの遺跡の分布状況について概観してみたいと思う。

縄文時代の遺跡は、牛池川と染谷川に挟まれた微高地上に集中する傾向にある。同台地上では元総社小見遺跡【13】で諸磯ｂ式期・加曽利Ｅ３式期の住居跡が検出されているのを始め、元総社蒼海遺跡群（13）【11】で諸磯ｃ式期の住居跡が確認されており、床面から板状土偶の出土も認められている。また、元総社北川遺跡【８】で晩期の注口土器が出土し、元総社蒼海遺跡群（９）【17】では該期の竪穴住居跡も検出されている。

弥生時代の遺跡数は極めて少ない状況にあり、確認された遺構のほとんどは後期の樽式期にあたるものである。該期の住居跡は、桜ヶ丘遺跡・下東西遺跡・上野国分僧寺・尼寺中間地域【７】・日高遺跡で確認されている。このうち、日高遺跡では浅間Ｃ軽石（Ａｓ－Ｃ：３世紀後半～４世紀初頭）下の水田跡が検出されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田として捉えられている。弥生時代後期以外確認は先述したとおり希少で、遺構に伴わないものの元総社北川遺跡【８】で竜見町式の壺が出土している。

古墳時代になると遺跡数は増大の傾向をたどる。利根川右岸には遠見山古墳・王山古墳【４】・稲荷山古墳【３】・総社二子山古墳・愛宕山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳が築造され、このうち稲荷山古墳を除く古墳は総社古墳群に属するものである。なお、宝塔山古墳の石棺と蛇穴山古墳の石室に見られる石造技術は、約 900 m南西に建立された山王廃寺【２】の石造物と同系統の技術であることから、これらの古墳は仏教色の強いものとされている。集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に多く分布しているが、前期～中期の住居跡は散見されるほどで、後期からの集落増加が目立つ地域と言えよう。集落に伴う畠・水田等の生産域は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中し、総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡【９】・総社閑泉明神北遺跡【17】・元総社西川遺跡【10】で畠跡、元総社北川遺跡【８】・総社閑泉明神北遺跡・総社閑泉明神北遺跡Ⅴ【17】・元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅲ【19】・元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ【20】で水田跡が確認されている。

奈良・平安時代の元総社は、上野国府・国分僧寺【５】・国分尼寺【６】が置かれ、古代上野国の中枢を担う

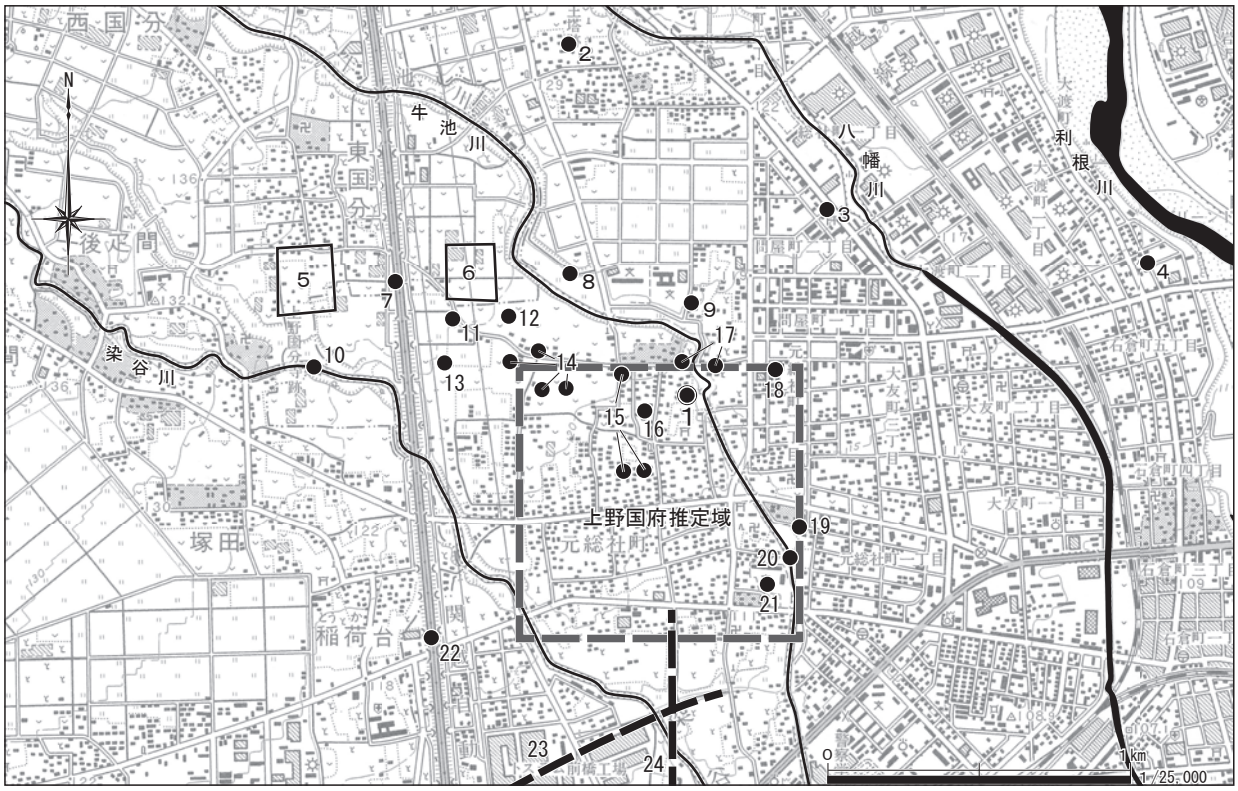


Fig. 3　遺跡分布図（国土地理院発行『前橋』1/25,000）

地域へと変化を遂げていく。現在、上野国府の範囲・建物については不明瞭な部分が多いものの、元総社蒼海遺跡群（７）（９）(10)【17】・閑泉樋遺跡【18】で東西方向、元総社明神遺跡【19】で南北方向の大溝が確認されており、国府域における北及び東外郭線が推定されることとなった。国府域推定域内には、元総社宅地遺跡【16】・元総社寺田遺跡【20】・元総社小学校校庭遺跡【21】など国府関連の様相を示す遺跡が確認されており、元総社宅地遺跡・元総社小学校校庭遺跡では掘立柱建物跡、元総社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」などが書かれた墨書土器や人形の出土が確認されている。国分僧寺・国分尼寺は必然的に上野国府周辺に置かれており、国分僧寺については昭和 55 年より本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・塀などが捉えられている。国分尼寺に関しては、昭和 44・45 年にトレンチ調査が行われたことにより伽藍配置の推測が可能となり、この結果を基に前橋市埋蔵文化財発掘調査団が、平成 12 年に寺域確認調査を行っている。この調査の結果、南東・南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状遺構を捉えるに至っている。なお、上野国府・国分僧寺・国分尼寺に関連する遺構も周辺で確認されている。上野国分僧寺・尼寺中間地域【７】で、大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されているのを始めとして、鳥羽遺跡【22】で神社遺構、中尾遺跡で工房跡が見られ、周辺地域における調査の重要性を再認識させられるものと言えよう。また、東山道（国府ルート）【23】・日高道【24】の存在も明らかになりつつあり、当時の交通事情や流通を知る貴重な手がかりになるものと考えられる。

一方、公的な建物以外の一般的な集落を概観すると、やはり本遺跡【１】を始めとして、牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地してくるが、国府推定域の中心部における分布は疎となっている。このような衛星的な集落は古墳時代の集落分布と比べるとさらに多い状況にある。無数に分布する集落遺跡に対し、本遺跡周辺の生産遺跡は少なく、元総社北川遺跡【８】・元総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡【９】などで確認されている畠跡に留まっている。水田跡は、本遺跡より南へ 2.3 ㎞ほど離れた日高遺跡で確認されている。

中世の遺跡としては蒼海城が挙げられ、関連遺構は元総社蒼海遺跡群（１）【12】・（５）【12】・（６）【14】・(23)【15】、元総社小見内Ⅷ遺跡【14】で確認されている。このうち、元総社蒼海遺跡群（23）で新旧の２時期にわたる堀、元総社蒼海遺跡群（６）で南北方向に走行する上端幅 11 ｍの堀が検出されている。

Ⅲ　調査方針と経過

１．調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路用地で、調査総面積は 232 ㎡である。元総社蒼海遺跡群には地点名が付されており、本遺跡に関しては 20 地点となっている。調査区に被せる方眼は 2000 年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている４ｍごとの方眼(日本測地系)を基準とし、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へＸ：236、Ｘ：237、Ｘ：238･･･、北から南へＹ：141、Ｙ：142、Ｙ：143･･･、と設定した。本遺跡Ｘ：240、Ｙ：145 の公共座標は以下のとおりである。

・元総社蒼海遺跡群（25）　20 地点　**測点**　Ｘ：240　　Ｙ：145

日本測地系：Ｘ =43380.0000　Ｙ =-71240.0000　　**世界測地系**：Ｘ =43734.9067　　Ｙ =-71531.7644

調査方法は、基本的に表土除去→遺構確認→遺構検出→断面観察→遺構完掘の順に行い、測量及び写真撮影による記録保存は、調査の進捗に合わせて随時行っている。表土除去は 0.25 バックホーで７世紀～９世紀の間に形成されたと想定される洪水層まで掘り下げることとした。遺構確認はジョレンを使用して行ったが、地山である洪水層と遺構埋没土は非常に近似する状態にあった。このため、調査区の形状に合わせて４ｍごとに土層観察用のベルトを方眼状に設定して、全体的に遺構が明確に確認できる高さまでジョレンで掘り下げることとした。なお、確認された遺構は基本的に移植ゴテを使用して掘り下げている。遺構の検出過程では、ベルトないし半截により遺構の埋没状況を確認し、出土遺物は可能な限りトータルステーションで出土位置及び標高を記録した後に取り上げを行った。

検出された遺構の記録保存は、平面・断面測量及び写真撮影で対応している。遺構図面は平面・断面図とも基本 1/20 縮尺で作成し、いずれもトータルステーションで測量している。遺構写真は、35 ㎜白黒・35 ㎜カラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として 600 万画素相当のデジタルカメラも利用した。

２．調査経過

現地での発掘調査は平成 20 年 12 月 26 日から平成 21 年２月 10 日まで、整理業務は平成 21 年２月 11 日～同年３月 16 日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

平成 20 年 12 月 26 日：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材の搬入。平成 21 年**１月５日**：調査準備。**１月 19 日**：表土除去開始。表土除去中に青白磁梅瓶完形２個体が出土したため、表土除去を中断する。梅瓶に関しては直ちに出土状況の記録を行い、当日中に前橋市教育委員会文化財保護課へ運搬し、保管することとする。**１月 22 日**:表土除去再開。**１月 26 日**：発掘補助員動員。遺構確認作業に着手し、竪穴住居跡を確認する。**１月 27 日**：遺構検出作業に取り掛かる。遺構のプランが不明瞭であるため、４ｍごとに設定したベルトの脇にトレンチを設定し、平面に加え、断面からも遺構確認に努めることとする。**２月６日**：遺構の検出を終了し、全体写真撮影を行う。全体写真撮影の終了を受けて、全体図の作成を行う。**２月９日**：全体図の作成終了。**２月 10 日**：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材を撤収し、現地調査終了。**２月 12 日**：遺物注記・接合に取り掛かる。**２月 16 日**：遺構原稿執筆及び遺物実測図作成。**２月 20 日**：遺物・遺構トレース開始。**２月 27 日**：版組み。**３月３日**：入稿・校正。**３月 13 日**：印刷・製本。**３月 16 日**：報告書納品。

Ⅳ　標準堆積土層

本遺跡は牛池川の右岸に立地しており、源流路から約50ｍの近さにある。遺跡周辺の地形はには牛池川によって形成されたものと推測される段丘面が確認でき、本遺跡は牛池川に接する低位段丘と次段の台地化している段丘面の境に位置している。このため、本遺跡の標高は西から東へ向けて緩やかに低くなる状態となっている。

提示した標準堆積土層の柱状図は比較的上位の段丘に近い部分で観察したものである。なお、Ⅶ層中に含まれる白色軽石は、軽石内に角閃石が含まれることからＨｒ－ＦＰ（榛名山二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中頃降下）ないしＨｒ－ＦＡ（榛名山二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭降下）が後世の洪水により運ばれてきたものと想定される。

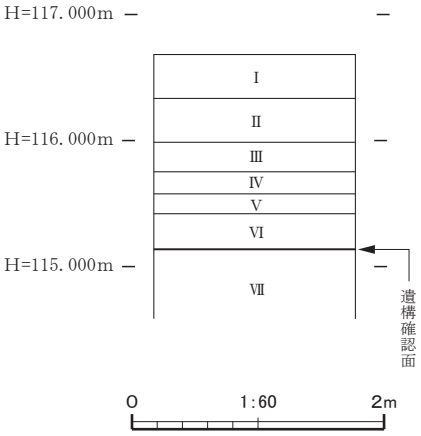


Fig. ４　標準堆積土層

Ⅰ．表土層
Ⅱ．暗褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性なし。
Ⅲ．暗褐色土　褐色土ブロックφ0.5㎝・炭化粒含む。
Ⅳ．暗褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、焼土粒・炭化粒微量含む。しまりやや弱。粘性なし。
Ⅴ．暗灰黄色土　Ａｓ－Ｂ多量含む。しまり弱。粘性なし。Ａｓ－Ｂ混土層。
Ⅵ．暗灰黄色土　Ａｓ－Ｂ多量含む。しまり弱。粘性なし。Ａｓ－Ｂ混土層。最下位にはＡｓ－Ｂの一次堆積層が部分的に見られる。
Ⅶ　暗褐色土　砂粒・小礫多量、白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性弱。洪水層。

Ⅴ　遺構と遺物

１．遺跡の概要（Fig. ５、ＰＬ．１）

本遺跡の調査では、竪穴住居跡10軒・土坑４基・溝１条・硬化面２基・ピット30基が検出されている。竪穴住居跡の時期は古墳時代末と平安時代に大別でき、古墳時代末の住居跡はＨ－１・２号住居跡で、平安時代の住居跡はＨ－４・５・７・９号住居跡である。なお、Ｈ－３・６・８・10号住居跡に関しては、住居跡の遺存状態が不良であり、なおかつ出土遺物も散見されなかったことから帰属時期を捉えるに至らなかった。また、硬化面を２箇所で確認しているが、これは住居跡の床面が部分的に確認された可能性が高いものと言えよう。なお、今回の調査では住居跡のプランを捉えられず、表土除去の段階で消失させてしまった住居跡が数軒存在している。これらの住居跡に関しては可能な限り調査区壁面の断面で確認し、その数は５軒を数える。土坑は、Ｄ－２号土坑が平安時代、Ｄ－４号土坑がＨ－７号住居跡を切ることから平安時代以降と考えられ、それ以外のＤ－１・３号土坑の帰属時期は不明である。なお、Ｄ－３号土坑に関しては、埋没土中に焼土・炭化物の混入が見られ、カマドの残骸ないし鍛冶関連の遺構である可能性を帯びるものである。ピットは調査区東側に集中する一群とＨ－５号住居跡を取り囲むように分布する一群とが見られる。５号住居跡を取り囲む一群はＰ４～11で、配置状況からＰ11を除くＰ４～10はＨ－５号住居跡の壁外柱穴である可能性が高いものと考えられる。

２．竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（遺構：Fig. ６、ＰＬ．１・２／遺物：Fig.16、Tab. ３、ＰＬ．５）

位置：Ｘ：236・237、Ｙ：141グリッド。**主軸方位**：Ｎ-87°－Ｗ。**重複**：断面において３軒の住居跡と重複する。埋没土層の観察から本住居跡は、いずれの住居跡よりも古い。**形状**：方形状ないし長方形状を呈するものと推測される。**規模**：〈2.43〉ｍ×〈1.73〉ｍ。**残存深度**：0.85ｍ。**面積**：〈4.20〉㎡。**床面の状態**：比較的平坦で、

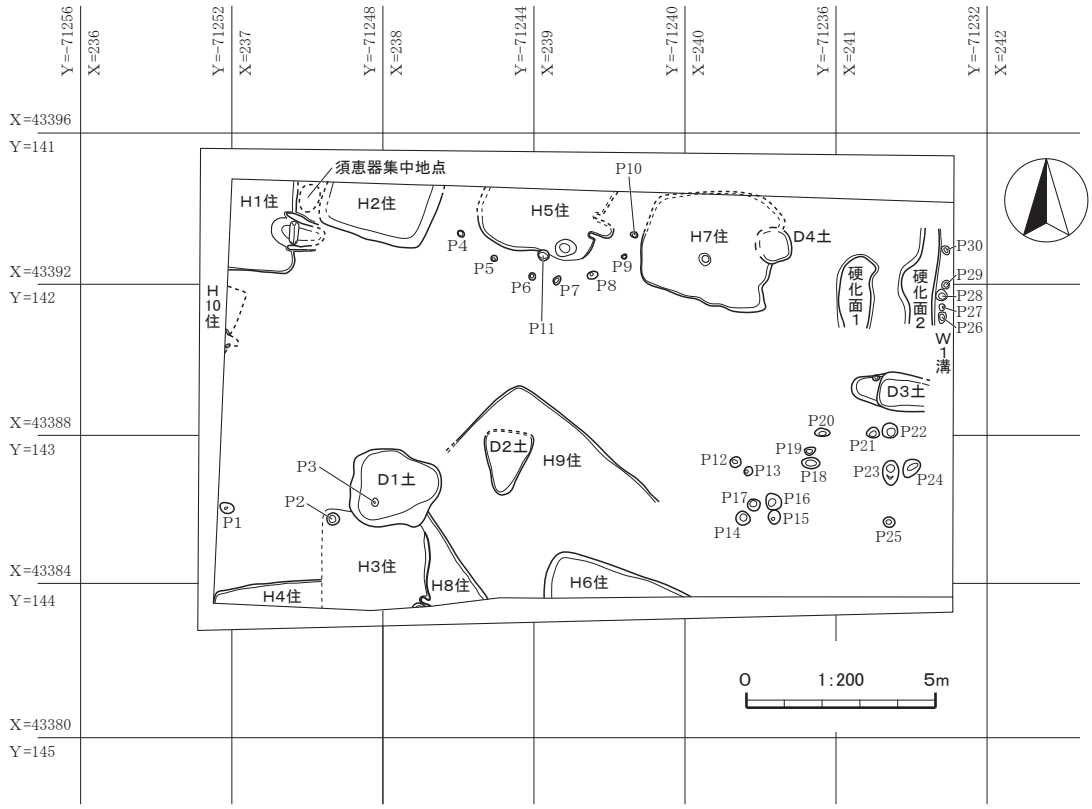


Fig. 5　全体図

しまりは強い。**カマド**:住居跡東壁のやや南寄りに設置されているものと推測され、全長 1.26 m以上・最大幅 0.72 m・主軸方位N -82°－Wを測る。断面形状は「U」字状で、炭化粒・ロームブロックを含む暗褐色ないし黒褐色を主体とした土で埋没しており、下層には焼土・炭化物・灰が多量に堆積している。焚き口部分には凝灰岩が構築材として架けられている。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：白色軽石を含む暗褐色を主体としたしまりの強い土で貼床を構築している。**遺構埋没状態**：砂粒・焼土粒・小礫・炭化粒・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より土師器小型甕・須恵器瓶・鉄鏃が出土している。**時期**：７世紀前半と想定される。

Ｈ－２号住居跡（遺構：Fig. ７、ＰＬ. ２／遺物：Fig.16、Tab. ３、ＰＬ. ５）

位置：X：237・238、Y：141 グリッド。**主軸方位**：N -75°－W。**重複**：重複は見られない。**形状**：方形状ないし長方形状を呈するものと推測される。**規模**：(2.97) m×〈1.71〉m。**残存深度**：0.85 m。**面積**：〈5.08〉㎡。**床面の状態**：比較的平坦で、しまりは強い。**カマド**：検出範囲においては確認されていないが、住居跡南東コーナーの壁面でやや焼けた白色粘土が検出されている。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：確認されていない。**遺構埋没状態**：砂粒・焼土粒・小礫・炭化粒・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より須恵器瓶が出土している。**時期**：７世紀前半と想定される。

Ｈ－３号住居跡（遺構：Fig. ８、ＰＬ. ２）

位置：X：237・238、Y：143・144 グリッド。**主軸方位**：N -89°－E。**重複**：Ｈ－４・８号住居跡、Ｄ－１号土坑、Ｐ２と重複する。また、断面において土坑１基と重複する。埋没土層の観察から本住居跡は、Ｈ－４・８

号住居跡より新しく、Ｄ－１号土坑・断面観察の土坑より古い。Ｐ２との新旧関係は不明である。**形状**：方形状を呈するものと推測される。**規模**：〈1.90〉ｍ×（1.84）ｍ。**残存深度**：0.38 ｍ。**面積**：〈3.50〉㎡。**床面の状態**：多少の凸凹が見られ、西から東に向けてやや傾斜する。**カマド**：住居跡南東コーナーに付設されているものと想定され、全長 0.34 ｍ以上・最大幅 0.17 ｍ以上・主軸方位Ｎ -67°－Ｗを測る。断面形状は「Ｕ」字状で、砂粒・焼土・小礫・炭化粒・白色軽石・白色粘土ブロックを含む暗褐色ないし黒褐色を主体とした土で埋没しており、下層には焼土・炭化物・灰が多量に堆積している。焚き口手前の床面には炭化物の広がりが見られる。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：砂粒・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体としたややしまりの強い土で貼床を構築している。**遺構埋没状態**：砂粒・小礫・炭化粒・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：10 世紀後半に比定されるＨ－４号住居跡より新しいことから 10 世紀後半以降と想定される。

Ｈ－４号住居跡（遺構：Fig. ８・９、ＰＬ．２／遺物：Fig.16、Tab. ３、ＰＬ．５）

位置：Ｘ：236・237、Ｙ：143・144 グリッド。**主軸方位**：Ｎ -85°－Ｅ。**重複**：Ｈ－３・８号住居跡と重複する。また、断面において土坑と重複する。埋没土層の観察から本住居跡は、重複するいずれの遺構より古い。**形状**：方形状ないし長方形状を呈するものと推測される。**規模**：4.64 ｍ×〈0.78〉ｍ。**残存深度**：0.78 ｍ。**面積**：〈3.62〉㎡。**床面の状態**：凸凹は少なく、西から東に向けてやや傾斜する。**カマド**：検出範囲においては確認されていない。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：砂粒・小礫・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体としたややしまりの強い土で貼床を構築している。**遺構埋没状態**：砂粒・小礫・炭化粒・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より須恵器碗が出土している。**時期**：10 世紀後半と想定される。

Ｈ－５号住居跡（遺構：Fig.10・11、ＰＬ．２・３／遺物：Fig.16、Tab. ３、ＰＬ．５）

位置：Ｘ：238・239、Ｙ：141 グリッド。**主軸方位**：Ｎ -70°－Ｗ。**重複**：Ｐ 11 と重複する。また、断面において住居跡１軒・土坑３基と重複する。埋没土層の観察から本住居跡は断面で重複する遺構のいずれよりも古い。Ｐ 11 との新旧関係は不明である。**形状**：隅丸方形状ないし隅丸長方形状を呈するものと推測される。**規模**：(3.22) ｍ×（1.96）ｍ。**残存深度**：0.89 ｍ。**面積**：〈6.31〉㎡。**床面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。**カマド**：住居跡南東壁のやや南寄りに付設されており、全長 0.61 ｍ・主軸方位Ｎ -65°－Ｗを測る。断面形状は「Ｕ」字状で、焼土・炭化粒・灰を含む暗褐色ないし黒褐色を主体とした土で埋没しており、下層には焼土・灰が多量に堆積している。袖の構築材として凝灰岩が使用されている。**貯蔵穴**：住居跡南東コーナー付近で確認されており、規模は 0.55 ｍ× 0.44 ｍ、深さ 0.20 ｍを測る。平面楕円形状、断面逆台形状を呈し、砂粒・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土により埋没している。**柱穴**：竪穴住居跡内では確認されていないが、住居跡の外側に壁外柱穴と推測されるピットが７基確認されている。各ピットの規模等は Tab. ２を参照。**掘り方**：砂粒・焼土・小礫・白色軽石を含む暗褐色を主体としたしまりのある土で貼床を構築している。**遺構埋没状態**：砂粒・焼土粒・小礫・炭化粒・白色軽石・白色粘土ブロック・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド南脇の床面直上、貯蔵穴の埋没土中位から須恵器坏・羽口が出土している。**時期**：10 世紀前半と想定される。

Ｈ－６号住居跡（遺構：Fig.12、ＰＬ．３）

位置：Ｘ：239・240、Ｙ：143・144 グリッド。**主軸方位**：Ｎ -75°－Ｗ。**重複**：断面において２基のピットと重複する。埋没土層の観察から本住居跡は、いずれのピットより古い。**形状**：方形状ないし長方形状を呈するもの

と推測される。**規模**：〈3.41〉ｍ×〈1.25〉ｍ。**残存深度**：0.66ｍ。**面積**：〈4.26〉㎡。**床面の状態**：凸凹は少なく、中央付近がやや高まる。**カマド**：検出範囲においては確認されていない。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：確認されていない。**遺構埋没状態**：砂粒・小礫・炭化粒・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：不明。

Ｈ－７号住居跡（遺構：Fig.13・14、ＰＬ．３／遺物：Fig.16、Tab.３、ＰＬ．５）

位置：Ｘ：239・240、Ｙ：141・142グリッド。**主軸方位**：Ｎ-76°－Ｗ。**重複**：Ｄ－４号土坑と重複する。また、断面において住居跡１軒・土坑２基と重複する。埋没土層の観察から本住居跡は重複するいずれの遺構よりも古い。**形状**:隅丸方形状ないし隅丸長方形状を呈するものと推測される。**規模**:3.50ｍ×〈3.05〉ｍ。**残存深度**:0.53ｍ。**面積**:〈10.68〉㎡。**床面の状態**:多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。住居跡中央やや南寄りに0.33ｍ×0.29ｍの楕円形状を呈する僅かな高まりが見られる。**カマド**：住居跡南東コーナーに付設されており、全長0.51ｍ・最大幅0.82ｍ・主軸方位Ｎ-49°－Ｗを測る。断面形状は「Ｕ」字状で、焼土・炭化粒を含む暗褐色ないし黒褐色を主体とした土で埋没している。燃焼部の床面には支脚として使用されていたものと想定される礫が設置されている。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：確認されていない。**遺構埋没状態**：砂粒・小礫・炭化粒・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：住居跡南西側の床面直上から灰釉陶器碗・須恵器坏が出土している。**時期**：11世紀前半と想定される。

Ｈ－８号住居跡（遺構：Fig.８・９、ＰＬ．３）

位置：Ｘ：237・238、Ｙ：143・144グリッド。**主軸方位**：Ｎ-61°－Ｅ。**重複**：Ｈ－３・４号住居跡、Ｄ－１号土坑と重複する。また、断面において土坑１基と重複する。埋没土層の観察から本住居跡は、Ｈ－４号住居跡より新しく、Ｈ－３号住居跡、Ｄ－１号土坑、断面確認の土坑より古い。**形状**：長方形状を呈するものと推測される。**規模**：〈2.43〉ｍ×2.85ｍ。**残存深度**：0.51ｍ。**面積**：〈6.93〉㎡。**床面の状態**：多少の凸凹が見られ、西から東に向けてやや傾斜する。**カマド**:住居跡南西壁やや北寄りに付設されているものと想定され、全長0.90ｍ・最大幅0.49ｍ・主軸方位Ｎ-60°－Ｅを測る。断面形状は「Ｕ」字状で、砂粒・焼土・炭化粒・灰・白色軽石・白色粘土ブロック・ローム粒を含む暗褐色ないし黒褐色を主体とした土で埋没しており、下層には焼土・炭化物・灰が多量に堆積している。焚き口部分の床面は焼土化しており、周囲の床面には炭化物が広がりが見られる。また、袖の芯材として使用されていたものと想定される礫が断面中で観察されている。**貯蔵穴**:確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：砂粒・小礫・炭化粒・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体としたややしまりの強い土で貼床を構築している。**遺構埋没状態**：砂粒・小礫・炭化粒・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：10世紀後半に比定されるＨ－４号住居跡より新しいことから10世紀後半以降と想定される。

Ｈ－９号住居跡（遺構：Fig.15、ＰＬ．４／遺物：Fig.16、Tab.３、ＰＬ．５）

位置：Ｘ：238・239、Ｙ：142・143グリッド。**主軸方位**：Ｎ-42°－Ｅ。**重複**：Ｄ－２号土坑と重複する。また、断面においてピット２基と重複する。埋没土層と出土遺物遺物の観察から本住居跡はＤ－２号土坑より新しく、断面確認のピット２基より古い。**形状**：方形状ないし長方形状を呈するものと推測される。**規模**：〈4.84〉ｍ×〈2.29〉ｍ。**残存深度**：0.18ｍ。**面積**：〈11.08〉㎡。**床面の状態**：凸凹は少なく、平坦である。**カマド**：検出範囲においては確認されていない。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**掘り方**：確認されていない。**遺構埋没状態**：砂粒・炭化粒・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定さ

れる。**遺物出土状態**：北西壁付近の床面直上より須恵器坏・碗が出土している。**時期**：11 世紀前半と想定される。

Ｈ－10 号住居跡（遺構：Fig. ６、ＰＬ．４）

Ｈ－ 10 号住居跡のほとんどは調査区外に位置し、検出は断面に残るカマドの一部のみのなっている。

位置：Ｘ：236・237、Ｙ：142 グリッド。**重複**：断面において溝１条と重複する。断面の観察から本住居跡は、断面確認の溝より古い。**残存深度**：0.60 m。**床面の状態**：凸凹は少なく、平坦である。**カマド**：両袖に構築材として礫を使用しており、燃焼部は住居跡の床面よりやや窪む。砂粒・炭化物・白色軽石を含む暗褐色の土により埋没しており、下位には炭化物と灰が多く含まれる。**掘り方**：カマド内部で確認されており、砂粒・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土により構築されている。**遺構埋没状態**：砂粒・焼土・小礫・炭化粒・白色軽石・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：不明。

３．土坑（遺構：Fig. ５、Tab. １、ＰＬ．４／遺物：Fig.16、Tab. ３、ＰＬ．５）

本遺跡において土坑は４基確認されている。性格を明確に捉えられた土坑はないが、Ｄ－３号土坑の埋没土中に焼土・炭化物の混入が見られることから、カマドの残骸ないし鍛冶関連の遺構を想像させるものと言える。各土坑の計測値等は Tab. １に示してある。

Tab. １　土坑一覧表

遺構名	グリッド	規模（m）	深さ（m）	平面形態	遺物	備考
Ｄ－１号土坑	Ｘ：237・238 Ｙ：143	2.39　×　2.05	0.20	不整円形	－	褐色粒・白色軽石を含む黒褐色土で埋没。Ｈ－３・８号住居跡と重複し、本土坑が新しい。Ｐ３との新旧関係は不明。
Ｄ－２号土坑	Ｘ：238 Ｙ：142・143	〈1.71〉×　1.29	0.15	隅丸三角形	10 世紀前半の灰釉陶器	９号住居跡と重複し、本土坑が古い。
Ｄ－３号土坑	Ｘ：241 Ｙ：142	〈1.88〉×　1.02	0.33	楕円形	－	埋没土中に焼土と炭化物。住居跡カマドないし鍛冶関連遺構か？
Ｄ－４号土坑	Ｘ：240 Ｙ：141	(1.05) × (0.96)	0.12	円形	－	Ｈ－７号住居跡と重複し、本土坑が古い。

４．溝

Ｗ－１号溝（遺構：Fig. ５）

位置：Ｘ：241、Ｙ：141・142 グリッド。**主軸方位**：Ｎ－３°－Ｅ。**重複**：Ｐ 26 ～ 30 と重複するが、新旧関係は不明。**規模**：上端幅〈0.39〉～〈0.58〉m、下端幅〈0.30〉～〈0.50〉m。**断面形状**：「Ｕ」字状を呈するものと想定される。**残存深度**：0.20 m。**底面の状態**：細かい起伏を有する。流水及び帯水の痕跡は認められない。**遺構埋没状態**：Ａｓ－Ｂ・砂粒・小礫・白色軽石を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：Ａｓ－Ｂ降下以降と想定される。**備考**：性格不明。

５．硬化面（遺構：Fig. ５）

硬化面は２箇所で確認されており、硬化面１・硬化面２と名称を付しているが、後世の掘削により分断されているものと想定される。なお、硬化部分には砂粒・小礫・白色軽石を含む暗褐色土が充填されており、本遺跡で確認されている住居跡の貼床に近似するものと言える。推測の域を脱しないが、住居跡の可能性が高い遺構と考えられよう。

６．ピット（遺構：Fig. ５、Tab. ２）

本遺跡においてピットは30基確認されており、調査区の東側に集中する一群とＨ－５号住居跡の周囲に巡る一群に分布が偏る傾向にある。なお、Ｈ－５号住居跡の周囲に巡るピットは同住居跡の壁外柱穴として機能していた可能性が高いものと言える。

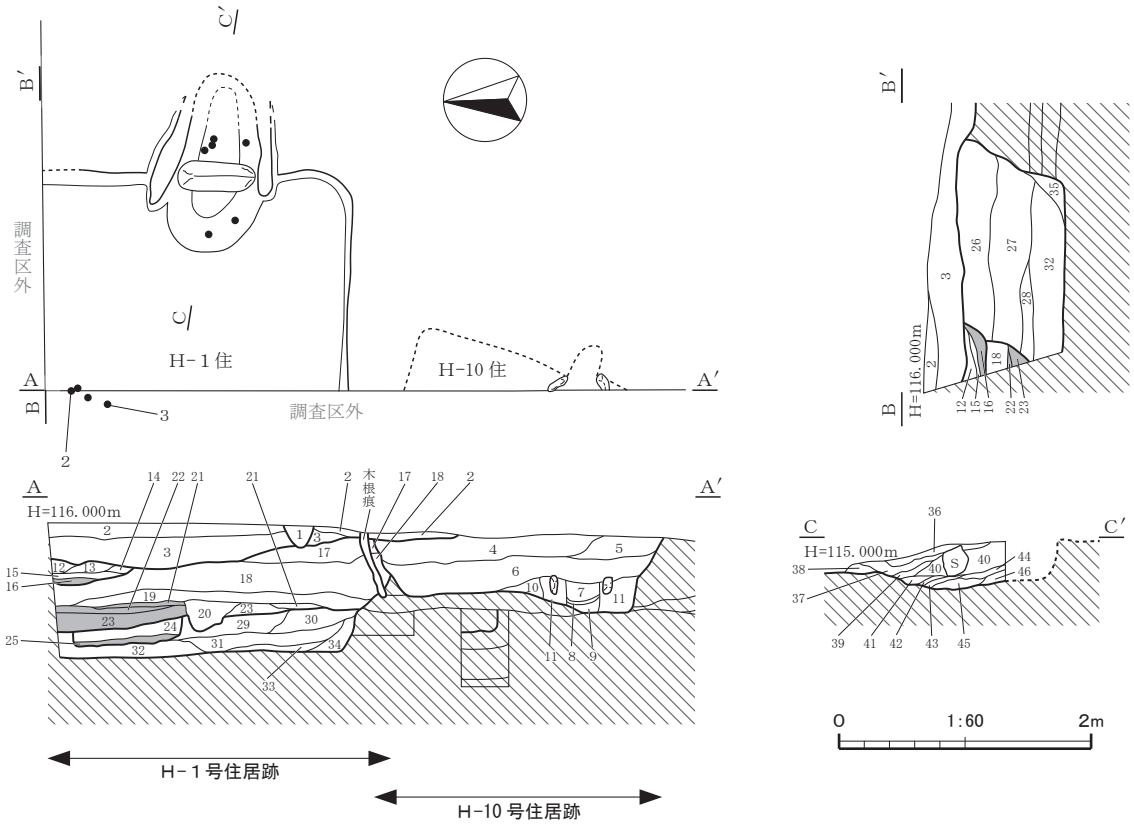
各ピットの計測値等はTab. ２に示してある。

Tab. ２　ピット一覧表

遺構名	グリッド	規模（m）	深さ(m)	平面形態	遺物	備　　考
Ｐ－１	Ｘ:236・237 Ｙ:143	0.37 × 0.29	0.22	楕円形	－	暗褐色の埋没土に白色軽石混入。
Ｐ－２	Ｘ:237 Ｙ:143	0.32 × 0.31	0.06	円形	－	暗褐色の埋没土に白色軽石混入。
Ｐ－３	Ｘ:237 Ｙ:143	0.21 × 0.18	－	楕円形	－	暗褐色の埋没土に白色軽石混入。
Ｐ－４	Ｘ:238 Ｙ:141	0.20 × 0.15	0.22	楕円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。Ｈ－５住の壁外柱穴？
Ｐ－５	Ｘ:238 Ｙ:141	0.17 × 0.15	0.30	円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。Ｈ－５住の壁外柱穴？
Ｐ－６	Ｘ:238・239 Ｙ:141	0.19 × 0.18	0.07	円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。Ｈ－５住の壁外柱穴？
Ｐ－７	Ｘ:239 Ｙ:141・142	0.24 × 0.19	0.05	楕円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。Ｈ－５住の壁外柱穴？
Ｐ－８	Ｘ:239 Ｙ:141	0.29 × 0.18	0.15	楕円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。Ｈ－５住の壁外柱穴？
Ｐ－９	Ｘ:239 Ｙ:141	0.14 × 0.13	0.09	円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。Ｈ－５住の壁外柱穴？
Ｐ－10	Ｘ:239 Ｙ:141	0.20 × 0.14	0.22	楕円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。Ｈ－５住の壁外柱穴？
Ｐ－11	Ｘ:239 Ｙ:141	0.29 × 0.28	0.46	円形	－	暗褐色の埋没土に炭化粒・白色軽石混入。
Ｐ－12	Ｘ:240 Ｙ:143	0.29 × 0.28	0.28	円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－13	Ｘ:240 Ｙ:143	0.25 × 0.22	0.19	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－14	Ｘ:240 Ｙ:143	0.36 × 0.35	0.40	円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－15	Ｘ:240 Ｙ:143	0.33 × 0.30	0.43	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－16	Ｘ:240 Ｙ:143	0.47 × 0.41	0.24	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－17	Ｘ:240 Ｙ:143	0.37 × 0.31	0.38	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－18	Ｘ:240 Ｙ:143	0.47 × 0.29	0.59	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－19	Ｘ:240 Ｙ:143	0.29 × 0.20	0.20	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－20	Ｘ:240 Ｙ:142・143	0.40 × 0.21	0.25	隅丸三角形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－21	Ｘ:241 Ｙ:142・143	0.32 × 0.27	0.19	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－22	Ｘ:241 Ｙ:142・143	0.40 × 0.37	0.34	円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－23	Ｘ:241 Ｙ:143	0.65 × 0.41	0.52	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－24	Ｘ:241 Ｙ:143	0.55 × 0.41	0.41	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－25	Ｘ:241 Ｙ:143	0.29 × 0.27	0.13	円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－26	Ｘ:241 Ｙ:142	0.29 × 0.21	0.22	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－27	Ｘ:241 Ｙ:142	0.18 × 0.15	0.23	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－28	Ｘ:241 Ｙ:142	0.29 × 0.29	0.28	円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－29	Ｘ:241 Ｙ:141・142	0.23 × 0.20	0.20	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。
Ｐ－30	Ｘ:241 Ｙ:141	0.25 × 0.20	0.24	楕円形	－	黒褐色の埋没土にＡｓ－Ｂ・白色軽石混入。

７．遺構外出土遺物（遺物：Fig.17、Tab. ４、ＰＬ. ５・６）

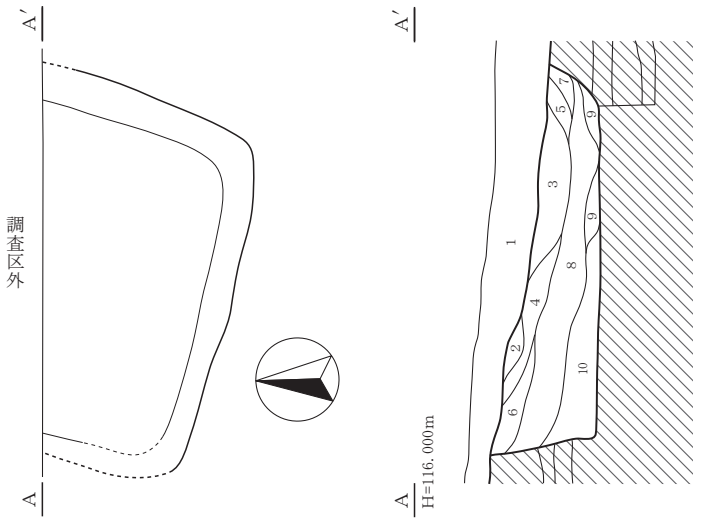
遺構外出土遺物として12点の遺物を提示した。このうち１・３・４は９世紀末～10世紀代に帰属するもので本遺跡で確認されたＨ－４・５号住居跡、Ｄ－２号土坑に近い時期と言えるものである。２・５～10は７世紀代の須恵器で、２・８を除くこれらの須恵器は須恵器集中地点より出土している。11・12は舶来品の青白磁梅瓶で13世紀～14世紀の南宋～元の時期にあたるものである。青白磁の梅瓶は、蒼海城に関連するものと考えられ、本遺跡地は蒼海城の縄張り図（山崎　一　1978『群馬県古城塁址の研究　上巻』）によると北東に位置する諏訪屋敷に当たる部分とされている。なお、『元総社蒼海遺跡群（23)』(2009　山下・日沖）のＷ－５号溝からは本遺跡から出土した梅瓶と同時期の舶来陶磁器が二次焼成を受けた状態で多数出土している。『元総社蒼海遺跡群(23)』は蒼海城の本丸ないし二の丸に想定される部分であり、古段階で火災に遭っていることが判明している。良品である青白磁の梅瓶は火災に伴い、本遺跡地である諏訪屋敷に持ち出された可能性も考えらよう。梅瓶の出土状態は表土除去中の偶然の発見で、遺構に伴った状態での確認はできなかった。出土後の現地に残された状況からⅡ層～Ⅵ層のＡｓ－Ｂが混入する土層中の可能性が高いものと考えられる。また、11は梅瓶内部に土が入り込んでいた状況であったのに対し、12の内部にはほとんど土は入っていない状況にあった。こらは、11が正位、12が横位に据えられた状態で埋められたことを示すものと言えよう。



H-1・10号住居跡土層説明

1．暗褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、砂粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ピット埋没土。
2．暗褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。溝埋没土。
3．暗褐色土　砂粒・焼土粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。溝埋没土。
4．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝中量、炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－10号住居跡埋没土。
5．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化物・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－10号住居跡埋没土。
6．暗褐色土　砂粒・焼土粒・炭化物・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－10号住居跡埋没土。
7．暗褐色土　砂粒・炭化物・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－10号住居跡埋没土。
8．灰 色 土　灰多量、炭化物中量含む。しまり弱。粘性なし。Ｈ－10号住居跡埋没土。
9．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－10号住居跡埋没土。
10．暗褐色土　砂粒・炭化粒・ローム粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－10号住居跡埋没土。
11．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりやや強。粘性あり。Ｈ－10号住居跡埋没土。
12．暗褐色土　炭化粒・灰中量、砂粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
13．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
14．暗褐色土　砂粒・炭化粒・灰・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
15．暗褐色土　炭化物中量、砂粒・灰・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。住居跡埋没土。
16．暗褐色土　砂粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。掘り方。住居跡埋没土。
17．暗褐色土　小礫φ0.5㎝中量、砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
18．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
19．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
20．暗褐色土　砂粒・焼土粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。掘り方。住居跡埋没土。
21．暗褐色土　砂粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。貼床。住居跡埋没土。
22．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。貼床。住居跡埋没土。
23．暗褐色土　砂粒・焼土粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。掘り方。住居跡埋没土。
24．暗褐色土　砂粒・焼土粒・少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
25．暗褐色土　砂粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。貼床。住居跡埋没土。
26．暗褐色土　小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒・炭化粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
27．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
28．暗褐色土　砂粒・焼土粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
29．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
30．暗褐色土　砂粒・ローム粒少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
31．黒褐色土　砂粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
32．暗褐色土　砂粒・焼土粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
33．暗褐色土　砂粒中量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－１号住居跡埋没土。
34．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－１号住居跡埋没土。
35．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝中量、炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－１号住居跡埋没土。
36．暗褐色土　ロームブロックφ0.5～5.0㎝中量、炭化粒少量、白色軽石（Ｈｒ－ＦＰ？）φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
37．にぶい黄褐色土　ロームブロックφ0.5～2.0㎝多量、炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
38．黒褐色土　ロームブロックφ0.5～1.0㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
39．黒褐色土　炭化粒・ロームブロックφ0.5㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
40．暗褐色土　ロームブロックφ0.5～3.0㎝中量、炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
41．黒 色 土　炭化層。灰中量、ロームブロックφ0.5㎝少量含む。しまり弱。粘性弱。
42．灰 色 土　灰層。炭化粒・ロームブロックφ0.5㎝少量含む。しまり弱。粘性弱。
43．褐 色 土　白色粘土ブロックφ0.5～1.0㎝中量、焼土粒・炭化粒・灰少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
44．黒褐色土　焼土粒中量、炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
45．褐 色 土　焼土多量、灰中量、白色粘土ブロックφ0.5㎝少量含む。しまり弱。粘性弱。
46．灰 色 土　灰多量、焼土中量含む。しまり弱。粘性弱。
47．にぶい黄褐色土　ローム粒・ロームブロックφ0.5～2.0㎝多量、小礫φ0.5㎝少量含む。しまり強。粘性やや強。カマド構築材。

Fig. 6　H - 1・10号住居跡

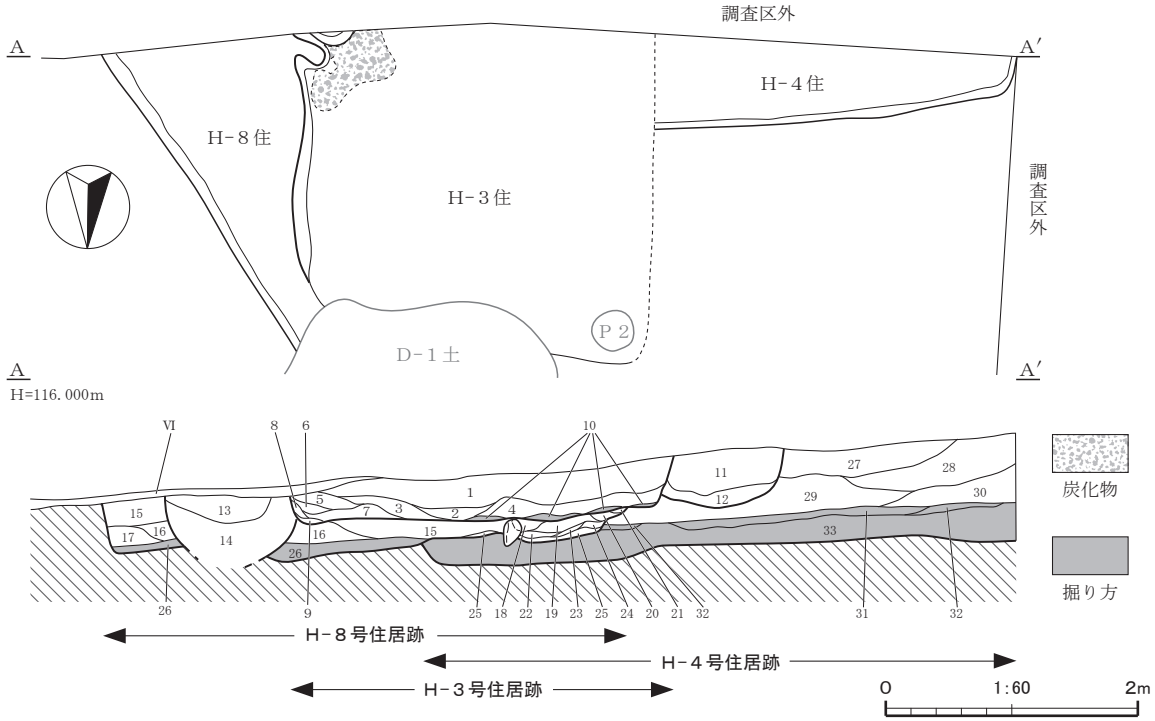


H－２号住居跡土層説明

1．暗褐色土　砂粒・焼土粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。溝埋没土。
2．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
3．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・焼土粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
4．暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒・炭化粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
5．暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒・炭化粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
6．暗褐色土　砂粒・ローム粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
7．暗褐色土　砂粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
8．暗褐色土　砂粒・焼土粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・白色粘土ブロック・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
9．暗褐色土　砂粒・炭化物・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。
10．暗褐色土　砂粒・焼土粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－２号住居跡埋没土。

0　1:60　2m

Fig. 7　H－２号住居跡



H－３・４・８号住居跡土層説明（１～20層まで）

1．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。H－３号住居跡埋没土。
2．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。H－３号住居跡埋没土。
3．暗褐色土　炭化粒・白色粘土粒少量、砂粒・焼土粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－３号住居跡埋没土。
4．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－３号住居跡埋没土。
5．暗褐色土　白色粘土粒少量、砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－３号住居跡埋没土。
6．暗褐色土　白色粘土ブロックφ0.5～1.0㎝中量、砂粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性あり。H－３号住居跡埋没土。
7．黒褐色土　炭化物多量、焼土粒・灰少量、砂粒・白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりやや弱。粘性弱。H－３号住居跡埋没土。
8．褐 色 土　焼土ブロックφ0.5～2.0㎝多量、炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－３号住居跡埋没土。
9．暗褐色土　炭化物中量、砂粒・灰少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまり弱。粘性弱。H－３号住居跡埋没土。
10．暗褐色土　砂粒・ローム粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。貼床。H－３号住居跡埋没土。
11．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
12．暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒少量、小礫φ0.5㎝微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
13．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
14．暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒少量、小礫φ0.5㎝微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
15．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝少量、炭化粒・白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－８号住居跡埋没土。
16．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝少量、小礫φ0.5㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－８号住居跡埋没土。
17．暗褐色土　砂粒中量、小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。H－８号住居跡埋没土。
18．暗褐色土　ローム粒少量、砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－８号住居跡埋没土。
19．暗褐色土　焼土ブロックφ0.5～1.0㎝・ローム粒中量、砂粒・白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性あり。H－８号住居跡埋没土。
20．暗褐色土　炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量、砂粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。H－８号住居跡埋没土。

Fig. 8　H３・４・８号住居跡①

Ｈ－３・４・８号住居跡土層説明（21 ～ 33 層）

21. 暗褐色土　焼土粒中量、炭化粒・白色粘土粒・ローム粒少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。Ｈ－８号住居跡埋没土。
22. 黒褐色土　灰多量、炭化物中量、焼土粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまり弱。粘性なし。Ｈ－８号住居跡埋没土。
23. 黒褐色土　炭化物多量、灰中量、焼土粒・白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまり弱。粘性弱。Ｈ－８号住居跡埋没土。
24. 暗褐色土　焼土ブロックφ0.5 ～ 2.0㎝多量、炭化物少量、白色軽石φ0.2㎝・ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－８号住居跡埋没土。
25. 暗褐色土　炭化物中量、焼土粒・灰・ローム粒少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。Ｈ－８号住居跡埋没土。
26. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒少量、白色軽石φ0.2㎝・ローム粒微量含む。しまりやや強。粘性ややあり。掘り方。Ｈ－８号住居跡埋没土。
27. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝中量、白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。Ｈ－４号住居跡埋没土。
28. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－４号住居跡埋没土。
29. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－４号住居跡埋没土。
30. 暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝少量、小礫φ0.5㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－４号住居跡埋没土。
31. 暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒・小礫φ0.2㎝少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。貼床。Ｈ－４号住居跡埋没土。
32. 暗褐色土　ローム粒中量、砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。貼床。Ｈ－４号住居跡埋没土。
33. 暗褐色土　砂粒中量、小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。掘り方。Ｈ－４号住居跡埋没土。

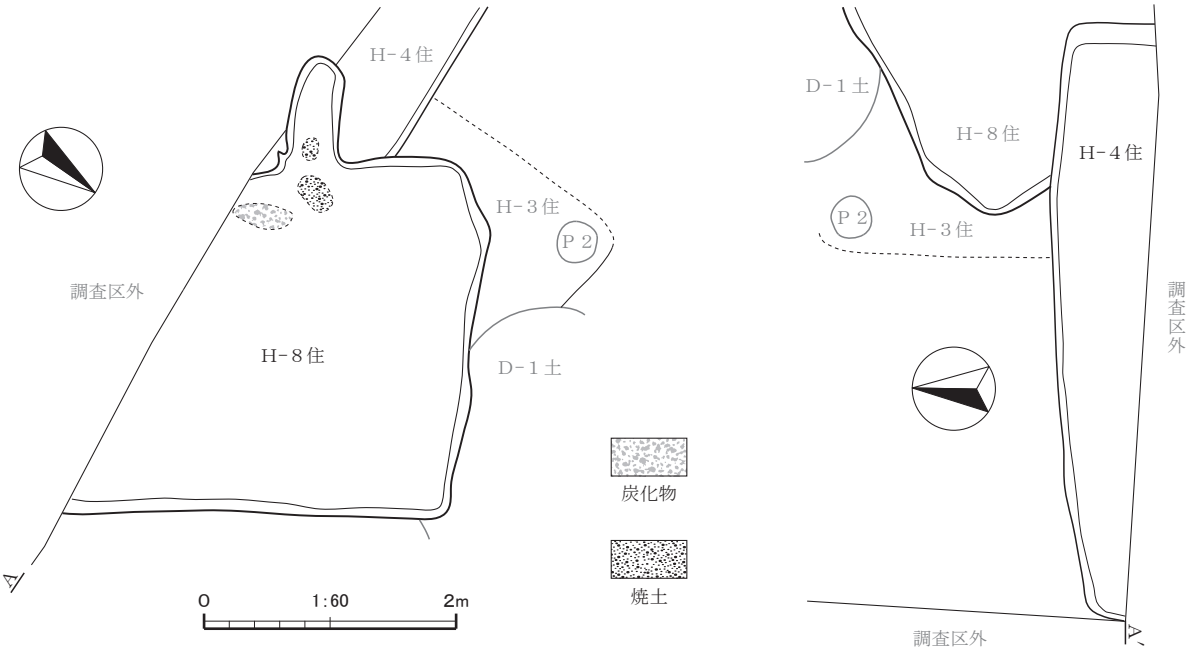
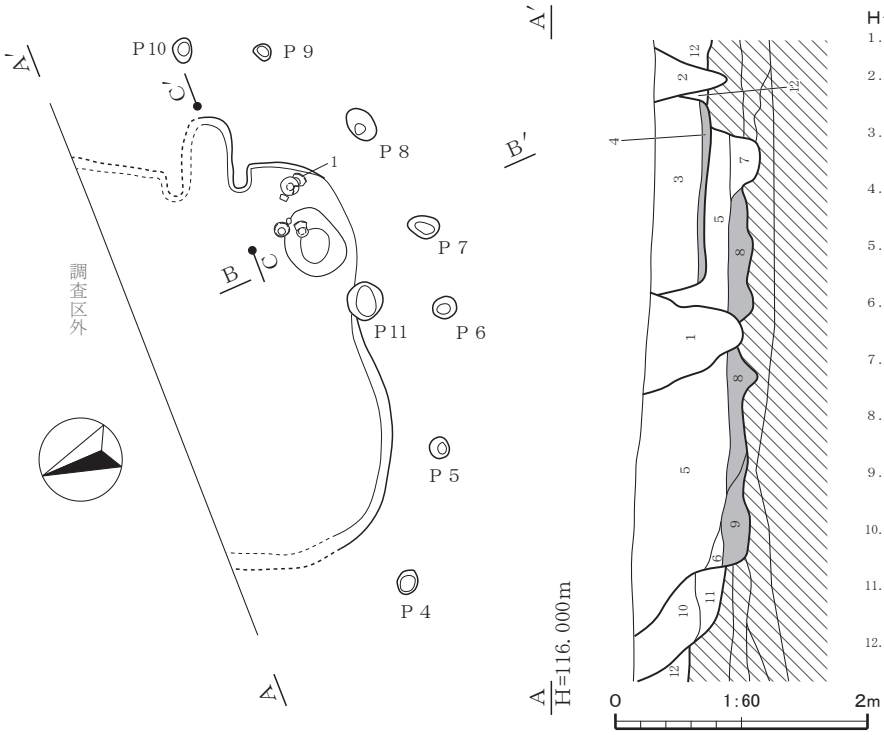


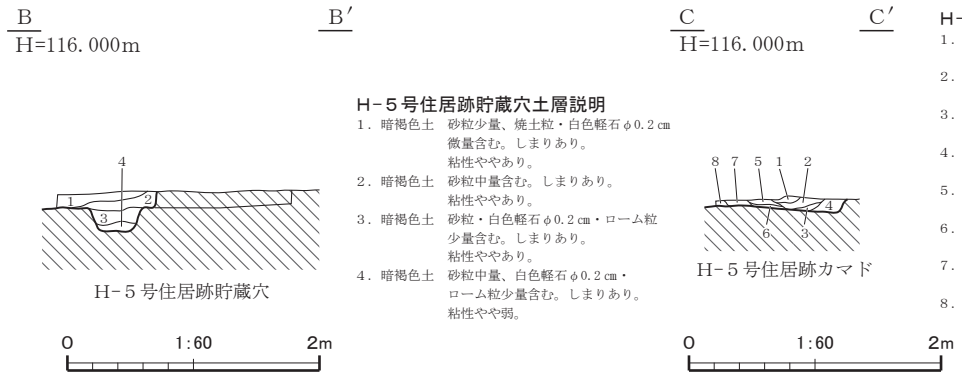
Fig. 9　Ｈ－３・４・８号住居跡②



Ｈ－５号住居跡土層説明

1. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化物少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
2. 暗褐色土　灰中量、砂粒・焼土粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。土坑埋没土。
3. 暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
4. 暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。掘り方。住居跡埋没土。
5. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－５号住居跡埋没土。
6. 暗褐色土　砂粒・焼土粒・白色軽石φ0.2㎝・白色粘土ブロック・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性あり。Ｈ－５号住居跡埋没土。
7. 暗褐色土　砂粒・焼土粒中量、炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－５号住居跡埋没土。
8. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。掘り方。Ｈ－５号住居跡埋没土。
9. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝中量、焼土粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。掘り方。Ｈ－５号住居跡埋没土。
10. 暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒・炭化物・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
11. 暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・焼土粒少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
12. 暗褐色土　砂粒・焼土粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 10　Ｈ－５号住居跡



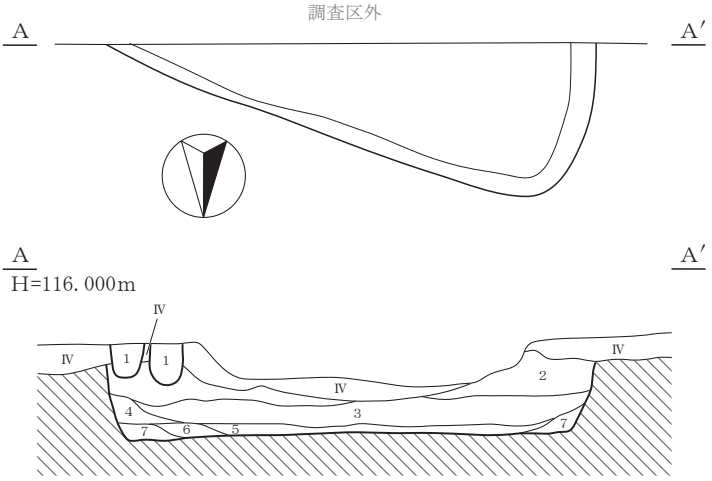
H−５号住居跡貯蔵穴土層説明

1．暗褐色土　砂粒少量、焼土粒・白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2．暗褐色土　砂粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3．暗褐色土　砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4．暗褐色土　砂粒中量、白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

H−５号住居跡カマド土層説明

1．黒褐色土　灰多量、焼土粒中量、炭化粒少量含む。しまり弱。粘性弱。
2．暗褐色土　焼土粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3．暗褐色土　焼土粒・炭化粒・灰少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4．暗褐色土　焼土粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5．暗褐色土　焼土粒・炭化粒少量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
6．黒褐色土　炭化粒少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7．灰 色 土　灰多量、焼土粒・炭化粒少量含む。しまり弱。粘性なし。
8．褐 色 土　カマド構築材の崩落。しまりあり。粘性あり。

Fig. 11　Ｈ－５号住居跡（貯蔵穴・カマド断面）



H−６号住居跡土層説明

1．黒褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。ピット埋没土。
2．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3．暗褐色土　砂粒中量、小礫φ0.5㎝・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
4．暗褐色土　砂粒中量、小礫φ0.5㎝少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5．暗褐色土　砂粒・小礫・白色軽石φ0.2㎝少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7．暗褐色土　砂粒多量、小礫φ0.5㎝少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりややあり。粘性弱。

Fig. 12　Ｈ－６号住居跡

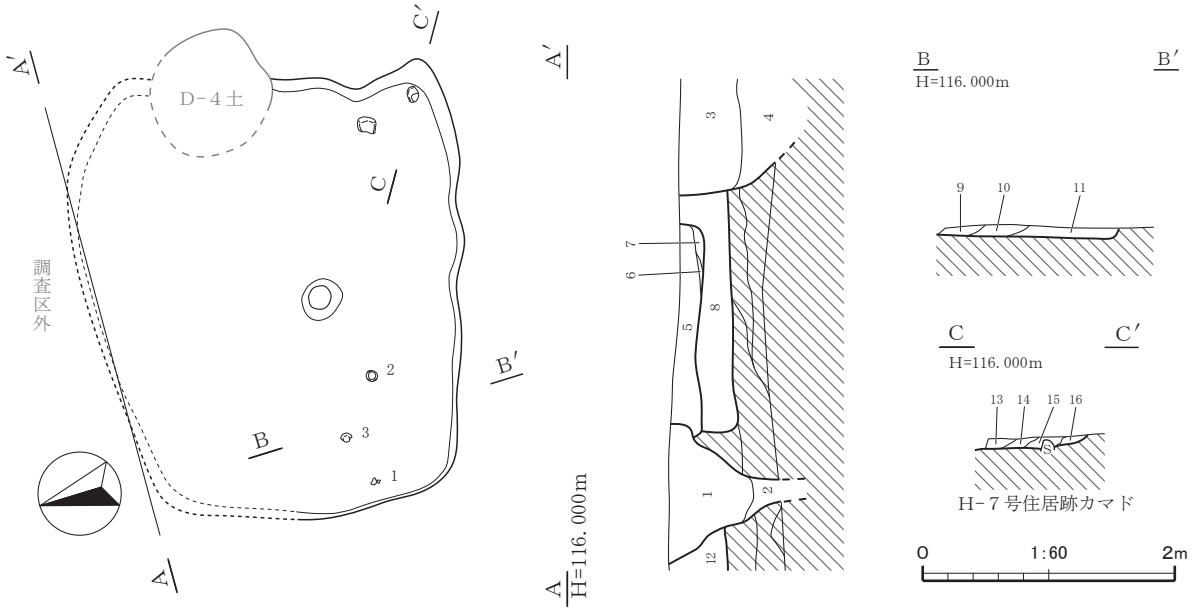
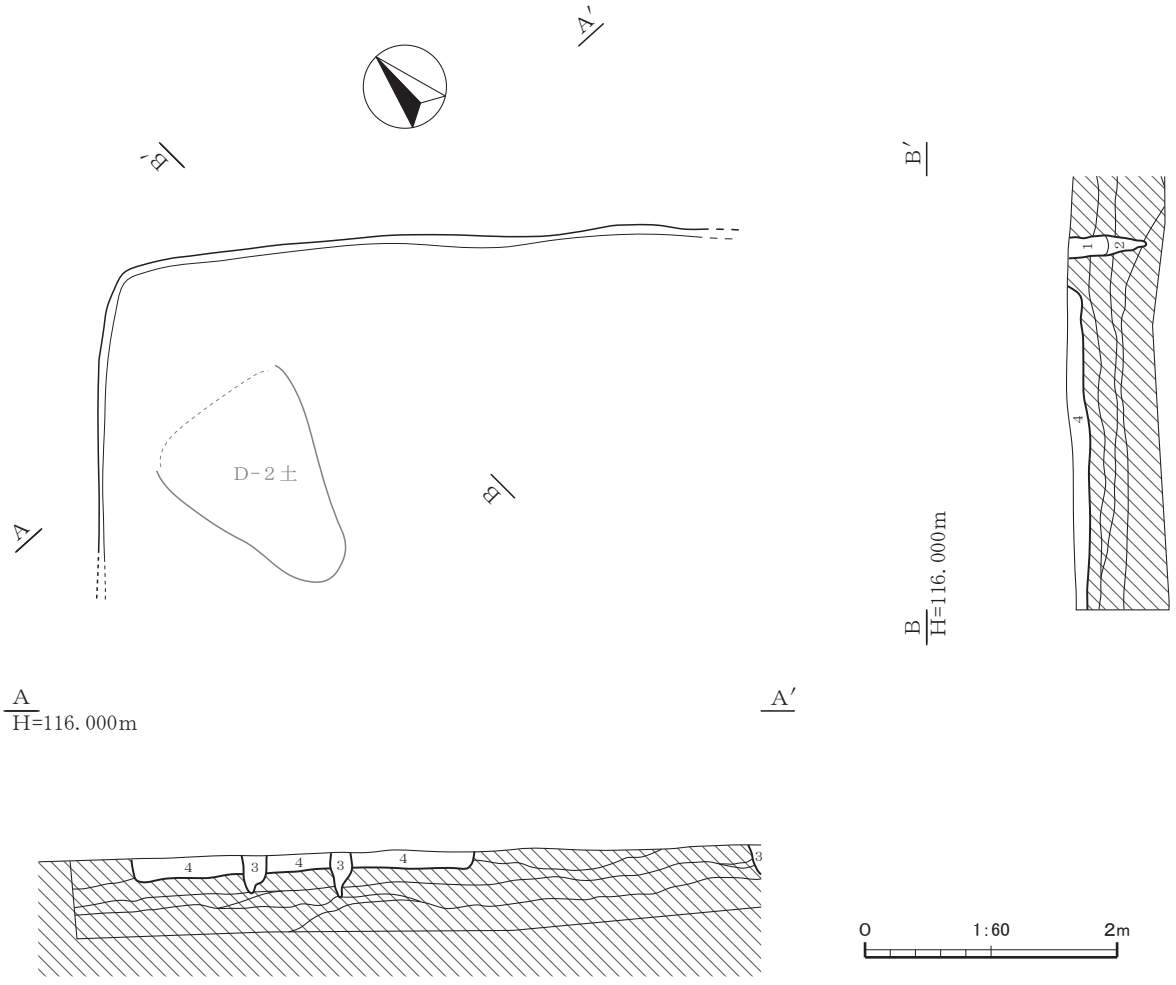


Fig. 13　Ｈ－７号住居跡

H－７号住居跡土層説明

1．暗褐色土　砂粒・焼土粒・小礫φ0.5㎝・炭化物・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土坑埋没土。
2．灰 色 土　砂粒・小礫φ0.5㎝少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性やや弱。土坑埋没土。
3．暗褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・砂粒・小礫φ0.5㎝中量、白色軽石φ0.2㎝・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。土坑・ピット埋没土。
4．暗褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・砂粒・小礫φ0.5㎝・焼土粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性やや弱。土坑埋没土。
5．暗褐色土　砂粒・焼土粒・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
6．灰白色土　灰多量、炭化粒少量含む。しまり弱。粘性なし。住居跡埋没土。
7．暗褐色土　小礫中量、砂粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。住居跡埋没土。
8．暗褐色土　砂粒・ローム粒少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－７号住居跡埋没土。
9．暗褐色土　砂粒・ローム粒少量、白色軽石φ0.2㎝微量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－７号住居跡埋没土。
10．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－７号住居跡埋没土。
11．暗褐色土　砂粒中量、白色軽石φ0.2㎝・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－７号住居跡埋没土。
12．暗褐色土　砂粒・焼土粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。溝埋没土。
13．暗褐色土　炭化粒少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－７号住居跡カマド埋没土。
14．黒褐色土　白色粘土粒中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱。Ｈ－７号住居跡カマド埋没土。
15．黒褐色土　焼土粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－７号住居跡カマド埋没土。
16．暗褐色土　焼土粒中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－７号住居跡カマド埋没土。

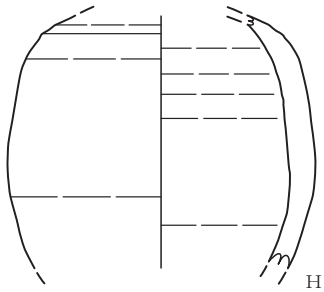
Fig.14　Ｈ－７号住居跡（土層説明）



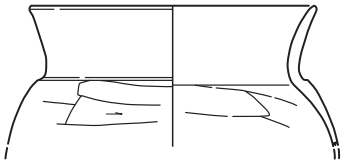
H－９号住居跡土層説明

1．暗褐色土　砂粒・小礫φ0.5㎝・炭化粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ピット埋没土。
2．暗褐色土　砂粒・焼土粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ピット埋没土。
3．暗褐色土　砂粒・焼土粒・白色軽石φ0.2㎝少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ピット埋没土。
4．暗褐色土　白色軽石φ0.2㎝中量、砂粒・炭化粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。Ｈ－９号住居跡埋没土。

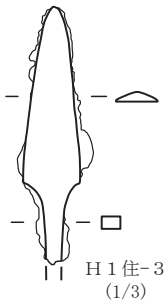
Fig.15　Ｈ－９号住居跡



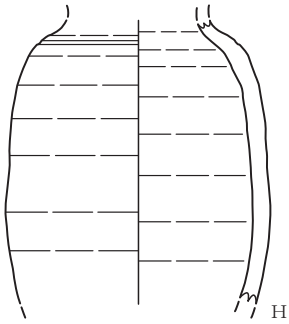
Ｈ１住-１
(1/3)



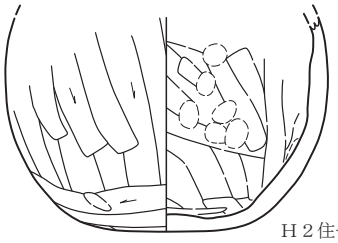
Ｈ１住-２
(1/3)



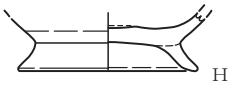
Ｈ１住-３
(1/3)



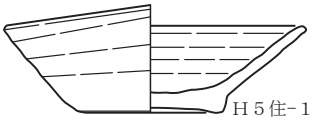
Ｈ２住-１
(1/3)



Ｈ２住-２
(1/3)



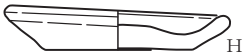
Ｈ４住-１
(1/3)



Ｈ５住-１
(1/3)

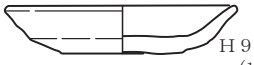
Ｈ５住-２
(1/3)

Ｈ７住-１
(1/3)

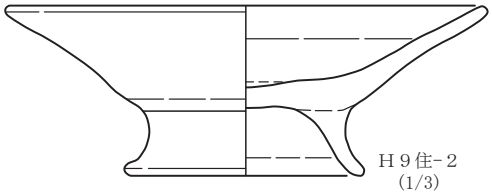


Ｈ７住-２
(1/3)

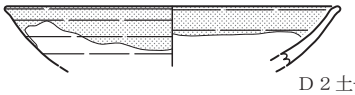
Ｈ７住-３
(1/3)



Ｈ９住-１
(1/3)



Ｈ９住-２
(1/3)



Ｄ２土-１
(1/3)

Fig. 16　出土遺物実測図①

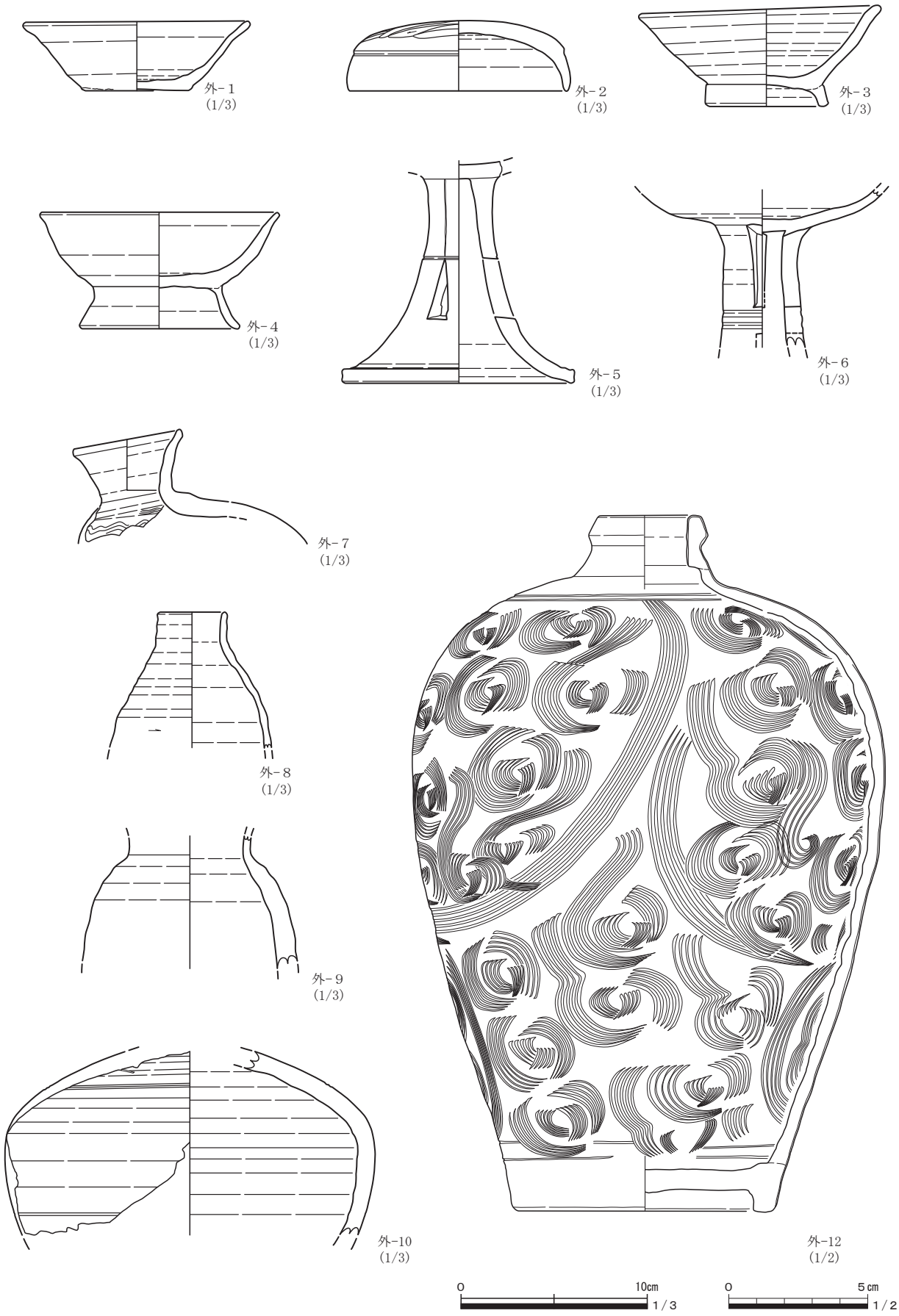


Fig. 17　出土遺物実測図②

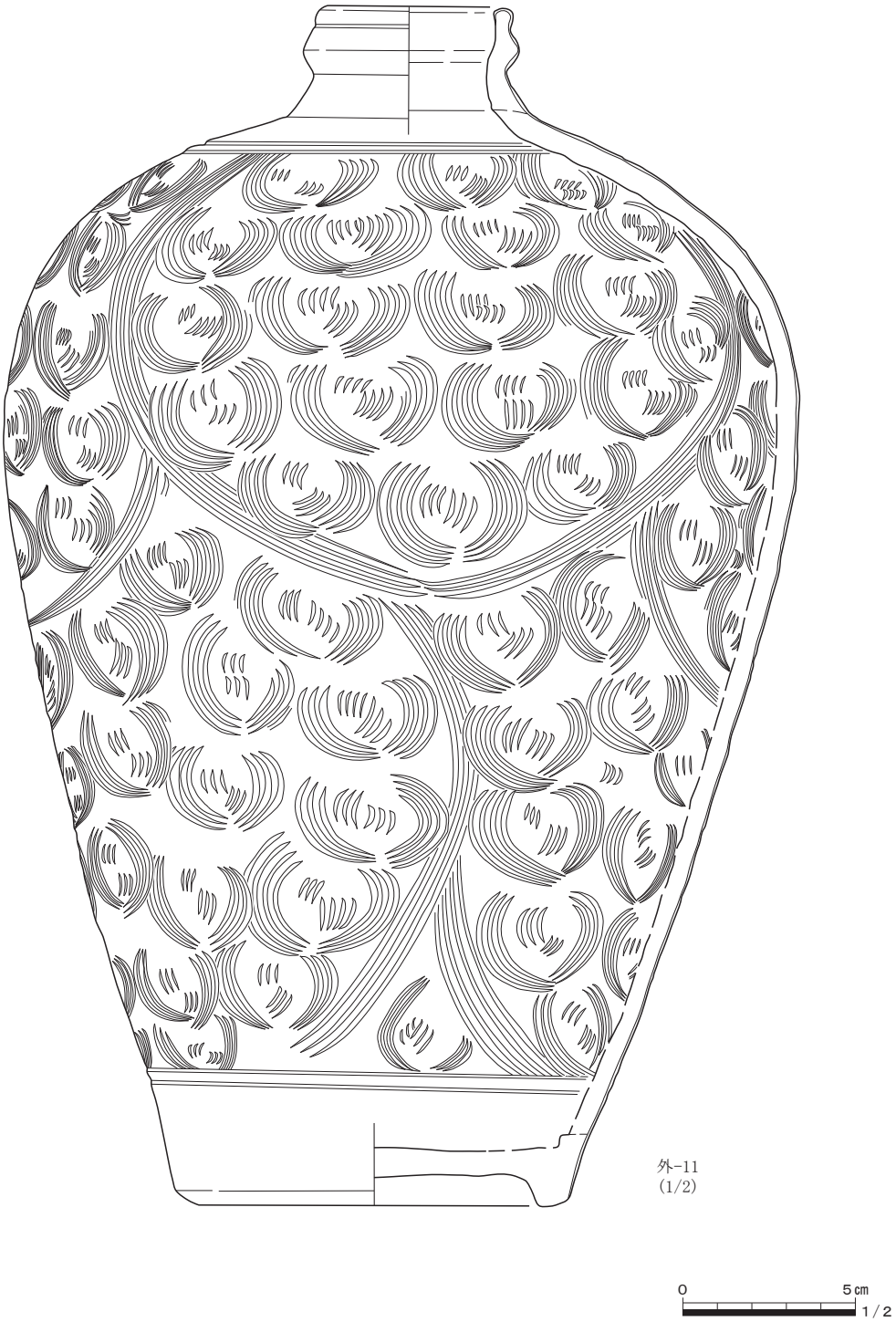


Fig.18　出土遺物実測図③

Tab. 3　遺物観察表①

Ｈ－１号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 瓶	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元　②灰　③白色粒 ④胴部 1/5	外面　轆轤整形。 内面　轆轤整形。	
2	土師器 小形甕	口径 (11.2) 底径　－ 器高　－	①普通　②橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～胴部上位 1/4	外面　口縁部横撫で、胴部箆削り。 内面　口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
番号	器　種		法量（cm）、成・整形技法の特徴		備　考
3	鉄製品	鉄鏃	残存長 10.2　幅 1.6　厚さ 0.4　重さ 34.2 g		

Ｈ－２号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 瓶	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元　②灰　③白色粒 ④胴部 1/3	外面　轆轤整形。 内面　轆轤整形。	
2	須恵器 瓶	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元　②にぶい黄～灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④胴部～底部 1/4	外面　胴部下位～底部箆削り。 内面　胴部下位～底部根で、指頭痕。	

Ｈ－４号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 碗	口径　－ 底径　7.0 器高　－	①酸化気味　②浅黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位～底部 1/2	外面　轆轤整形、底部回転撫で。 内面　轆轤整形。	

Ｈ－５号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 坏	口径 (11.8) 底径　5.8 器高　4.3	①酸化気味 ②褐灰～にぶい黄橙 ③白色粒・礫　④ 3/5	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
番号	器　種		法量（cm）、成・整形技法の特徴		備　考
2	土製品	羽口	残存長 3.5　内径 2.2　重さ 24.0 g		

Ｈ－７号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	灰釉陶器 碗	口径　－ 底径　6.0 器高　－	①還元　②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位～高台部 1/4	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
2	須恵器 坏	口径　8.5 底径　5.8 器高　1.8	①酸化　②にぶい橙 ③白色粒・角閃石 ④ほぼ完形	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
3	須恵器 坏	口径 (9.3) 底径　4.1 器高　2.2	①酸化　②にぶい橙 ③白色粒・褐色粒　④ 3/4	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	

Ｈ－９号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 坏	口径　9.0 底径　4.8 器高　1.9	①酸化　②橙 ③白色粒・黒色粒　④完形	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
2	須恵器 碗	口径 (18.8) 底径　9.2 器高　6.8	①酸化 ②にぶい橙～にぶい褐 ③白色粒・雲母　④ 3/4	外面　轆轤整形、底部回転撫で。 内面　轆轤整形。	

Ｄ－２号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	灰釉陶器 碗	口径 13.1 底径　－ 器高　－	①還元　②黄灰　③白色粒 ④口縁部～体部中位 1/2	外面　轆轤整形。 内面　轆轤整形。 釉は漬掛け。	

Tab. 4　遺物観察表②

遺構外出土遺物

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 坏	口径 12.0 底径　5.6 器高　3.8	①還元　②灰黄～黄灰 ③白色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
2	須恵器 蓋	口径 11.6 底径　－ 器高　3.8	①還元　②灰 ③白色粒・黒色粒　④7/8	外面　轆轤整形、天井部手持ち篦削り。 内面　轆轤整形。	
3	須恵器 碗	口径 12.7 底径　6.1 器高　5.4	①酸化気味　②橙～黄灰 ③褐色粒・石英・白色粒 ④完形	外面　轆轤整形、底部回転撫で。 内面　轆轤整形。	
4	須恵器 碗	口径（12.7） 底径　8.4 器高　6.3	①酸化　②灰黄褐～にぶい黄褐　③白色粒・褐色粒・黒色粒　④2/3	外面　轆轤整形、底部回転撫で。 内面　轆轤整形。	
5	須恵器 高坏	口径　－ 底径 12.2 器高　－	①還元　②灰　③黒色粒 ④底部～脚部 2/3	外面　轆轤整形、2段3箇所に透かし、上段は線状で貫通しているが隙間はない、下段は三角形。 内面　轆轤整形。	
6	須恵器 高坏	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元　②にぶい黄褐 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位～脚部中位残存	外面　轆轤整形、2段2箇所に長方形透かし。 内面　轆轤整形。	
7	須恵器 平瓶	口径（5.8） 底径　－ 器高　－	①還元　②灰黄褐　③白色粒 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面　轆轤整形、胴部に波状文。 内面　轆轤整形。	
8	須恵器 瓶	口径　3.4 底径　－ 器高　－	①還元　②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～胴部 5/6	外面　轆轤整形、胴部下位右回転篦削り。 内面　轆轤整形。	
9	須恵器 瓶	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元　②黄灰 ③白色粒・黒色粒 ④頸部～胴部 1/2	外面　轆轤整形、胴部下位撫で。 内面　轆轤整形。	
10	須恵器 瓶	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元　②灰 ③白色粒・黒色粒 ④肩部～胴部中位 1/4	外面　轆轤整形、肩部・胴部中位に沈線、肩部に焼成前線刻。 内面　轆轤整形。	
11	青白磁 梅瓶	口径　5.5 底径 11.3 器高 34.9	②緑灰　④完形	外面　口縁下に２条、底部に２条ないし３条の凹線。渦文。	13～14 世紀 良品
12	青白磁 梅瓶	口径　3.7 底径　9.4 器高 25.0	②明緑灰　④ほぼ完形	外面　口縁下・底部に２条の凹線。渦文。	13～14 世紀 良品

遺構外 11

遺構外 12

Fig.19　出土した青白磁梅瓶の文様構成（展開写真）

写　真　図　版

遺跡全景

遺跡全景

遺跡全景

Ｈ－１号住居跡全景

Ｈ－１号住居跡土層断面

Ｈ－１号住居跡カマド全景

Ｈ－１号住居跡カマド全景

Ｈ－２号住居跡全景

Ｈ－３号住居跡全景

Ｈ－３号住居跡カマド全景

Ｈ－４号住居跡掘り方全景

Ｈ－５号住居跡全景

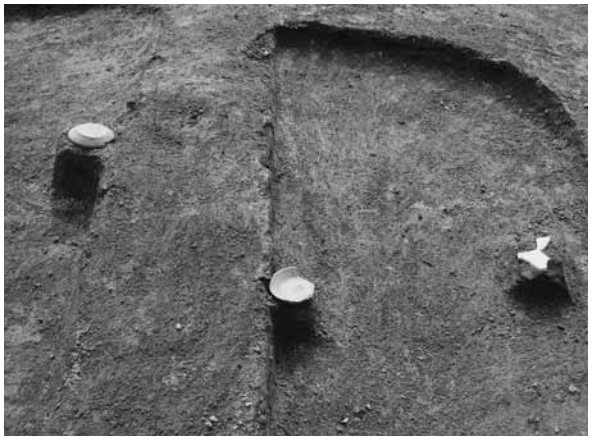
Ｈ－５号住居跡遺物出土状況

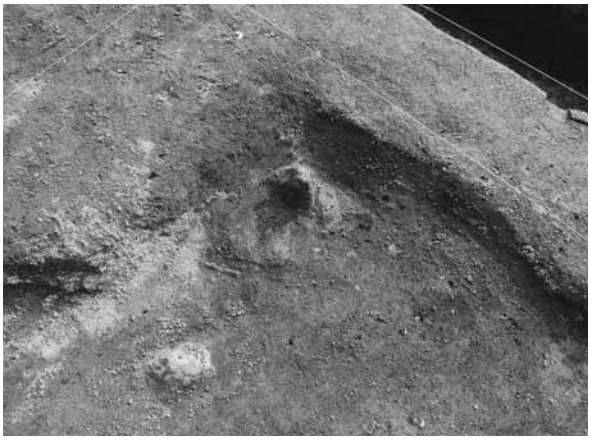
Ｈ－５号住居跡遺物出土状況

Ｈ－５号住居跡カマド全景

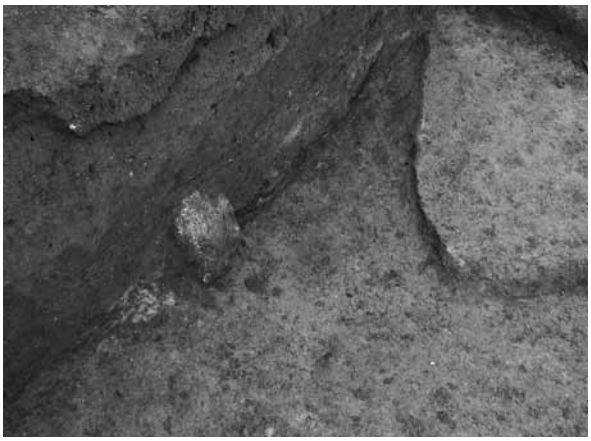
Ｈ－６号住居跡全景

Ｈ－７号住居跡全景

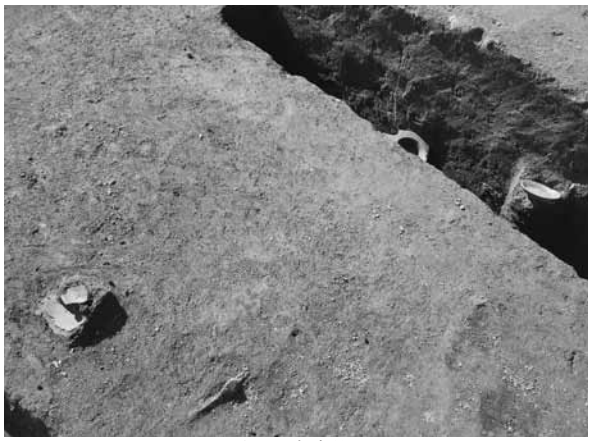

Ｈ－７号住居跡遺物出土状況


Ｈ－７号住居跡カマド全景

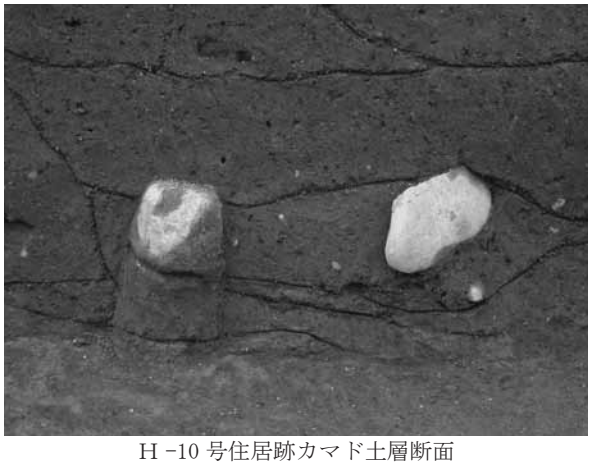
Ｈ－８号住居跡全景


Ｈ－８号住居跡カマド全景

Ｈ－９号住居跡全景


Ｈ－９号住居跡遺物出土状況

Ｈ－９号住居跡遺物出土状況


Ｈ－10 号住居跡カマド土層断面

Ｄ－１号土坑全景

Ｄ－２号土坑全景

須恵器集中地点

調査風景

Ｈ１住－１
Ｈ１住－２
Ｈ１住－３
Ｈ２住－１
Ｈ２住－２
Ｈ４住－１
Ｈ５住－１
Ｈ５住－２
Ｈ７住－１
Ｈ７住－２
Ｈ７住－３
Ｈ９住－１
Ｈ９住－２
Ｄ２土－１
外－１
外－２
外－３
外－４
外－５
外－６
外－７
外－８
外－９
外－10

出土遺物①

外－11

外－12

出土遺物②

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン 25
書名	元総社蒼海遺跡群（25）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	山下歳信・和久拓照・日沖剛史
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒 371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目 10- 2　　TEL　027-231-9531
発行年月日	西暦 2009 年３月 12 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	（日本測地系）				
元総社蒼海遺跡群（25）	群馬県前橋市元総社町 2049 番２号ほか１筆	10201	20 A 130-25	36°23′18″	139°02′21″	20081226～20090210	232	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（25）	集落跡	古墳 平安 中世	竪穴住居跡 土坑 溝 ピット	10 軒 4 基 1 条 30 基	土師器 須恵器 灰釉陶器 鉄製品 陶磁器	南宋～元時代（13 ～ 14 世紀）の青白磁梅瓶が２個体完形で出土。

元総社蒼海遺跡群（25）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 21 年３月 13 日印刷
平成 21 年３月 16 日発行

編　集／前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発　行／前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目 10- 2
TEL　027-231-9531
印　刷／朝日印刷工業株式会社